

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 法学部3年

参加プログラム: IARU GSP 派遣先大学: University of Copenhagen

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤民間企業(業界:総合商社、コンサルティング)6.起業 7.その他( )

派遣先大学の概要

デンマークの首都コペンハーゲンの中心部にある、University of Copenhagen の Faculty of Theology(神学部)で、キルケゴール哲学を一か月間学んだ。

参加した動機

普段学んでいる分野ではない人文科学に集中的に触れるいい機会であったこと、英語を使ってある程度自分に負荷をかけられること、北欧文化に触れるいい機会であったこと、などが主な参加動機である。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

参加書類の提出が、法学部であれば特に後期期末試験と重なるため、早くからプログラムについて調べ、書類を早めに準備しておくのが良いと思う。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

特に VISA は必要ではなかった。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特に何もしなかった。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

AIU の海外保険を利用した。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

単位互換は初めから目的としていなかったため特に申請はしなかったが、7月のゼミに参加することができなかったため、ゼミの先生には予め欠席する旨を伝えておいた。また各種書類の申請等を学部を介して行ったため、教務課の場所を確認しておくとお楽である。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

特に何も準備はしなかったが、9月から1年間の留学を考えていたため、TOEFL や IELTS の試験を受けていた。大体 IELTS で Overall7.0 ぐらい。ただ、Speaking が弱かったので、もっと日本にいる間に練習する機会があればいいと思った。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

キルケゴールの日本語版の原著「あれかこれか」「死に至る病」を持っていると、授業の理解がはかどる。また、事前に日本でいくつか概説書を読んでおくといい。軽く日本でさらったら、後は授業中の講義で理解を付負ける。また、所謂「古典」を英語で読むことになるので、ある程度の長さの英語(40 ページほど)を読む訓練をしておく、テキストの詩的な単語が分からない時も負担が軽くなる。後見落としがちであるが、教科書として英語版の”Either/Or”, “The Sickness Unto Death”(ともに Penguin Books)を日本で買って置かなければならないので、注意が必要である。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

“Kierkegaard, The Individual in the Global Society”

②プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

基本的に、教科書または現地配布資料の中で事前 Reading の範囲が指定され、学生はそれを事前に読んでくることが求められる。それを前提としたうえで授業は、講師が時折本文を参照しながら内容を説明しつつ、常に学生に対して Open Question を求めるという形式で進められていく。基本的に講師と学生の対話が多い、双方向的な授業が行われていた。復習は特に求められていなかったが、時々授業内容に関する質問シートや参考資料が配布されたりした。

④学習・研究面でのアドバイス

普段から①哲学あるいは神学に触れることがなかったり②比較的長文の英語を読むことがなかったりすると、特に最

初の方で、単語も分からず、(哲学であるがゆえに)一文が長く文章も読み進められず、非常に苦勞する。できれば事前に、せめて日本語でキルケゴールの文献に当たってみたり、長文の英語を読む練習をしておいたりしておく、少しは苦勞も軽減されるのではないかと思う。またギリシア哲学に触れることも多々あるので、プラトンやソクラテスなど、代表的なギリシア哲学者の思想、あるいはギリシア神話などをさらっておくと授業や文献の理解もはかどるのかもしれない。ただ経験的に、終盤の方になってくると、段々とその特徴的な文体にも少しは慣れてくるので、現地での学習が重要であることは間違いない。

#### ⑤語学面での苦勞・アドバイス等

元々そこまで英語が話せるわけでもなかったため、特に初めの方は、このプログラムまでしばらく英語を使っていなかったため、授業についていけるので必死だった。やはり英語で 3 時間授業を受けるというのは初めての経験なので、昨今はオンラインでの大学の授業配信なども行われているから、そういったリソースを有効に使えるといいのではないだろうか。またどうしても最後まで哲学の専門用語、詩的な単語にはなれることができず、議論に参加することが授業レベルでほとんど出来なかったのは残念だった。

#### 生活について

##### ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学が Accommodation を提供してくれた。大学からバスで約 15 分、駅のすぐ近くという好立地。部屋には専用のキッチン、WC、シャワーがついていたので、特に日本で一人暮らしをしているときと生活はそこまで変わらない。ただしノベーションの部屋であるため、部屋によって洗剤がついていたりいなかったり、シーツがあつたりなかったりする。家賃は 4500DKK にデポジットがプラス 5000DKK(デポジットは帰国後返却)。

ただネットを使用するためには有線ケーブルが必要なため、日本から持ってこなければならない。(有線につないで無線 LAN を飛ばせるルーターを日本で買っておくと便利。)

##### ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

基本的に日中は 20 度前半なのでほどよく暖かく、また雨もほとんど降らないので過ごしやすい気候であると言える。ただ日没後(23 時ごろ)には 15 度前後まで気温が下がったり、暑い日は日差しが非常に強かったりと、寒暖の差は激しいので、体調管理には気を付ける必要がある。

大学はコペンハーゲンの本当に中心部(観光の中心)に立地しているので、色々とアクセスはよい。Flex Card が 1 か月あたり 435DKK(小さな顔写真を提出すれば 350DKK)で購入でき、コペンハーゲン市内の主要各地であれば、バスや鉄道が乗り放題であるため便利である。食事に関しては、スーパーで売っているような野菜や肉は日本とそこまで変わらないが、外食をすると基本的に高い。せっかくキッチンもあつたので、基本的に家で料理を行いつつ、時々外食をしていた。(スーパーが Accommodation のすぐ近くにあるので便利)

お金に関しては、カード支払いの文化が発達しているのでつつい使ってしまうがちになるが、基本的には日本かデンマークで日本円のキャッシュをデンマーククローネに替えておき、現金で支払いを行う方がいいと思う。

##### ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

日没が遅く、日の出も早いため、外を歩いてもそんなに危険は感じない。治安もよく、せいぜいストロイエ(中心街)でのスリに気を付ければよい程度。ただ寒暖の差が激しいので、体調管理には気を付け、服装もある程度バラエティがあつた方がいい。

実際、観光客が多い所だとスリの危険が高いので(実際に自分も財布をすられました)十分気を付ける必要がある。

##### ④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空券代は往復で約 11 万円(Emirates)、授業料は大学間協定により無料、教科書が"Either/Or", "The Sickness Unto Death"の 2 冊で約 4000 円(その他参考書に 2000 円ほど)、家賃は約 8 万円、交通費として大体 1 万 5000 円程度、その他食費や観光費など諸々でおそらく 4~5 万円程度。

合計で奨学金の分を差し引き、大体 20 万円弱程かかった。

##### ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO の奨学金が 8 万円。

##### ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

授業は月水金だけだったので、休日や授業のない平日に、一人や同じコースの子と一緒にコペンハーゲンや周辺の観光を行った。

また大学が提供するものとして、授業後にカフェに行ったり、展示を見に行ったり、最終日にはチボリ公園で夕食と遊園地を楽しんだ。3 週目の土日には一泊二日の Bike-Trip があり、ひたすら自転車を漕いでデンマークの北の方を回りつつ、レストランでの食事やキルケゴール縁の地に行ったり、また参加者同士での会話を楽しんだりした。(ただ非常に体力を必要とするので気を付けるべき)。お金は全て大学が賄ってくれたので、非常に良いプログラムであるように思う。

さらに参加者の間で、最終週に BBQ を行ったり、簡単な誕生日祝いを行ったりと、適度に交流もあつた。

#### 派遣先大学の環境について

##### ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

基本的に日本の大学ほど海外の大学はきっちりとしておらず適当であることは知っていたが、コペンハーゲン大学も

ご多分に漏れず、パスワードや Accommodation の説明など、雑なことやミスが時々あったので、Administration には自分から積極的に尋ねていくことが必要であるように思う。

## ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

学部構内は無線 LAN が飛んでおり、利用することができる。食堂は夏季休業中なので空いておらず、特にスポーツ施設もない。ただ一番厄介なのは、学部生でないとプリンターを利用できない点で、同じコースの神学部の子に頼むか、図書室の人をお願いしてプリントさせてもらわなければならなかった。日本のようにコンビニにプリンターが合ったりするわけではないので、日本で印刷できる分に関しては国内で済ませておくのが良い。(ただスキャンは図書室のプリンターで出来る)

## プログラムを振り返って

### ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

まずこのプログラムの意義としては、超短期とはいえ英語にある程度慣れることができること、他の大学の学生と比べた時に自分の未熟さを実際に痛感できること、そして自分と向きあう時間ができること、が主に言えるかと思います。英語に関してですが、毎回一定量の事前 Reading が課され、かつ週に 3 回は英語で Lecture を受け議論に参加するので、日本にいたるときとは段違いに英語への慣れ、というものがつきやすいかと思います。また内容もカジュアルな英語ではなく、アカデミックなテーマについて英語で理解するので、語学留学などとはまた違った経験ができるのかと思います。またこのプログラムの特徴として、他の大学の学生と一緒に受講するというのが大きいかと思いますが、良くも悪くも、海外の学生の勉強量を体感できる良い機会かとも思ったりします。(もちろんこれは個人差があるのでしょうが。)ある程度これが勉学のモチベーションにつながることも否めません。(あくまで個人的にですが)さらに個人的には、こういった短期の海外プログラムでいいと思うのは、自分ときちんと向き合う時間ができることだと思っています。特に本コースで取り扱うキルケゴールが実存哲学を扱っていたこともあり、自分は普段、いったいどのような姿勢で、日々の生活を暮しているのか、そういった自分の内面を問い直すいい機会であったと思います。普段の人間関係から少し距離を置き、日本での自分を見つめ直すことができました。

今回のプログラムを通じて成長したことに関しては、今すぐに評価できることではないかとも思いますが(こういった経験から得られたものというのは大体暫く経ってからふと気づくものだと思っているので)、実際に Academic Reading の能力は上がったと思いますし、他の大学の学生との交流を通じて日常的な会話で使われる英語の用法に関しても少し慣れることができたかと思います。

最後になりますが、プログラムで出会う人とのつながり、これも大変貴重であったと思いました。受講生の一人のコメントを最後に引用して終わりたいと思います。”We meet to depart and depart to meet. What really matters is neither the meeting nor the departing, but what we carry in our heart from the first time we meet and after that.

### ②参加後の予定

特に今回のプログラムを受けて、というわけではないが、8月に学生会議を運営した後、9月から1年間休学してロンドンに学部留学する予定である。

### ③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

日本では中々学ぶ機会のないキルケゴールの実存哲学。約1か月、その母国で真剣に自分の内面と向き合うのもいいかもしれません。非常に素晴らしい先生なので、ぜひ時間さえあればトライしてみることをお勧めします。

## その他

### ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

「地球の歩き方」…路線図なども載っており、やはり便利。

「人と思想 キルケゴール」…日本でキルケゴールの思想をさらっておくのにちょうどいい。

### ②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 工学部 4年

参加プログラム: IARU Global Summer Program

派遣先大学: University of Copenhagen

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界: ) 6.起業 7.その他( )

派遣先大学の概要

デンマークのコペンハーゲンにある大学。同国で一番歴史があり、また最大規模の大学である

参加した動機

哲学の授業を聞いてみたいので、また欧州にも行ってみたいかったです。

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

遠慮せずに積極的に留学センターに連絡したほうがいい。

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

日本人ではないので、シェンゲンビザが必要となる。申請を出してから待つ時間は一週間ぐらいなのでそんなにからなかったが、手続きがちょっと面倒なので、事前によくチェックし準備したほうがいい。また、不足の書類も申請を出したときも注意されるので、特に心配なく。

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

健康診断は特に必要ない。

④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

保険はウェブで調べたシェンゲンビザの必要となる最も安い保険を選んだ。たぶん検索するとすぐに出てくる。一日ごとに10ユーロぐらいかな。

⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

工学部はどうせ単位として認めないので特に手続きがないが、申請を出したときに自分の学科の学科長の承認が必要なので学科事務室に余裕を持って申し込んだほうがいい。

⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

特にないが、申請のためにTOEFLを受けた。また帰ってきたらTOEFLを受けるとさすがに点数が上がった。

⑦ 日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

シート、枕とか。実際持参しなくても寮の近くのスーパーで安く買える。一番必要なのはおそらくご飯や調味料など。デンマークでの食事は本当に単調。。。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

Soren Kierkegaard philosophy.

②プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

主に、"Sickness unto death"と"Either or"の段落を中心にリーディングして授業で討論する。

④学習・研究面でのアドバイス

哲学が非常に難しく、しかも英語でやるので、いっそう難しかった。教科書に行く前に前もって読んだほうがよい。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

日常会話がそこまで問題ないが、授業を理解するのが非常に難しい。したがって、ほかの学生と討論するか、先生に積極的に質問したほうがいい。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

基本みんなが寮に住んでいた。個室であった。家賃は 5000Kr ぐらいで、敷金も 5000Kr であった。特に使用するとき心がけて使用するべき。なぜなら退室時に入るときの状態に戻す必要があるから。じゃないと罰金を払わないといけない。

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)  
授業は City Campus なので買い物や観光などは非常に便利。学校から寮まではバスもしくは自転車を借りていかないとちょっと遠かった。両方の交通手段があんまり値段から変わらない。400Kr/month

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)  
コペンハーゲンの治安は非常によいので夜になって一人歩いてもかまわない程度。しかし、どこに行っても泥棒はいるので注意するのも必要である。特に遊樂地などの入っている場所で財布管理が要注意。

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)  
授業料なし。教科書は 100 US dollar 以内 (Kindle で買ったので、現地で買うともっと高い)。家賃 4770+5000Kr (deposit)。生活費 3000Kr。航空賃 13 万円。

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)  
大学から 8 万円もらいました。

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)  
一回の週末に Bike trip をみんなで一緒にした。ほかは自由に。デンマークのクラスメートの家で Barbecue やったり。

#### 派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)  
サポートはあんまりない。夏休みなのでほとんどのサービスも休み。全部自分で管理。なので友達との交流や情報交換も絶対必要。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)  
食堂はない。部屋でケーブルの Internet が使える。学校で Wifi 使える。図書館たぶんいけるが利用したことがない。

#### プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感  
授業はほとんど理解不可能であって残念だったが、やはり自分でほかの目標などをもって過ごしたほうがいい。たとえば、Soren Kierkegaard の哲学が理解できなくても、基本の哲学理論を理解するとか、哲学の歴史を知るとか、何らかの目標を持ってプログラムをすごすと意義あるではないかと思っている。また生活を満喫する。日本人みたいな Life style と比較しながら留学生活を送るとたくさんのが感じられる。

② 参加後の予定  
大学院に進学する。

③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス  
教科書を絶対あらかじめ読むこと。授業がわからなくても何らかの目標を持って生活していくこと。現地での生活を満喫すること。以上。

#### その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

Textbook:

Soren Kierkegaard,

“Either/Or”, “Sickness unto death”

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 法学部三年

参加プログラム: Kierkegaard 派遣先大学: University of Copenhagen

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界: 未定) 6.起業 7.その他( )

派遣先大学の概要

コペンハーゲン大学。学部によってキャンパスがいくつか分かれており、神学部は市街地にあった。

参加した動機

自分の専門(法学)とは全く違う分野に触れること、海外のレベルの高い学生と交流することを通じて色々な意味で視野を広げたかった。

参加の準備

- ①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)  
申込締切が法学部の試験とかぶっていたので、前々から準備することを勧める。
- ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)  
ビザ取得する必要なし
- ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)  
特になし
- ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)  
損保ジャパンに加入
- ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)  
法学部は出席をとる授業がないので特にしていない。他学部(文学部、農学部)の授業はレポートを出すことで出席扱いにしてもらった。
- ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)  
特にしなかった。
- ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど  
醤油など

学習・研究について

- ①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)  
※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。  
Kierkegaard: The Individual in the Global Society
- ②プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)  
毎回キルケゴールの著作を読むこと(平均 30 ページ位)が課され、それを前提に先生がレクチャー、ディスカッションをする。二回ほどゲストスピーカーが講義をしてくださった。
- ④学習・研究面でのアドバイス  
キルケゴールの本 Either/Or, Sickness unto Death などを日本語訳でいいから読んでおくこと。
- ⑤語学面での苦勞・アドバイス等  
普段聞かない哲学用語が当然のように使われるので、あらかじめ英単語を勉強していればよかった。

生活について

- ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)  
寮、家賃 4825 クローネ(約 10 万円)+デポジット 5000 クローネ、一人一部屋与えられるのでプライバシーが確保されてよし、学校からハウジングのオファーがあった。

- ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)  
今年は異常気象から暑かった。日差しが強いイメージ。10回乗れる回数券を購入、学校からの帰りは歩くことが多かった(4キロくらい)。食事はレストランで食べると高額になるので自炊がメインだった。5万円ほど両替してその他お土産などはクレジットで支払い。
- ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)  
治安を心配する必要は無し。
- ④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)  
合計 32 万円程度  
航空券 17 万円、授業料無料、教科書代 5000 円(デンマークで購入、キルケゴールの著作)、家賃 10 万円、交通費 5 千円、その他(食費、娯楽費など)4 万円ほど
- ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)  
なし(二つ申し込んだが受給されなかった)
- ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)  
週末はキルケゴールのゆかりの地をめぐるバイクトリップ(無料)が行われた、それ以外はクラスメイトと観光したりハンブルクに行ったり。

#### 派遣先大学の環境について

- ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)  
インターナショナルオフィスが12時から15時まで(授業時間と被る)しか開いてなく、不便だった。また、メールをしても返信が遅かった。
- ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)  
学部の図書館が使える。ジムは有料、食堂は夏休みのため開いてなかった。

#### プログラムを振り返って

- ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感  
正直キルケゴールという哲学者を理解することは出来なかった。プログラムに参加する前の方が表面的ではあったが理解していたかもしれない。笑。  
しかし、世界のトップ大学から集まったクラスメイトと話すのは非常に刺激的であった。(具体的なことはブログを参照して欲しい。URL: <http://profile.ameba.jp/msky26masaki/>)
- ②参加後の予定  
短期的な予定としては、試験勉強。長期的な予定としては、就活と言ったところだろうか。
- ③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス  
正直言ってクラスメイトのレベルは高かった。語学的な面(多くが英語を母語としていた)でも勉強的な面(哲学専攻のPhDの人など多かった)でも、クラスの中で積極的に発言をするためには、プログラム前に相当な準備をしたほうが良いと思う。  
プログラム自体はリア充なので是非参加して欲しい。

#### その他

- ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物  
Cinii(日本語論文検索サイト)
- ②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。